



年中行軍繪卷考

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



年中行事繪卷考

卷

一

第
二
三
胡朝朝
觀觀觀
行行行
章章章

年中行事繪卷物再興趣意書

413
59
六十卷が臺えどものとて爾来我邦の重寶として宮中にあり墨移り物也。皇居天上殿内に於て此繪をも防ぐ焼失して四百二十餘年後改ざる清水尾帝の御時喜二重の三重ある御とぞ此繪をの成りハ恰も法華元年大内裏燒き以舊に係り筆者ハ時當時宮城の建築内外の裝飾儀式及更化風俗を用ひ見よ候と有。

ものなれば以て桓武帝延暦三年創建算數と四石佛坐間宏文院殿と極する帝都の壯觀大極殿の盛時ハ此繪臺に本跡と苟り建久の清政攝政門に移り宮中の式微に傾き漸次御遺品の頽墮狭小となり此繪臺の存焉に拘に舊の面影と傳はん玉移り後を何時乎詳く慮る筆と圖稿ヤハシカガルものかはア儀式其他の事も書き記すもあと圖稿の傳も此の事も此繪臺の外ニギハ後み尾帝ハ賢明の君にまつて故に此繪臺の多く失ひ今昔を顧む他日御身興の由も是にて宣和三年に太祐内記後位まかに勤しく宮中に残り原平及々他世に現存す様が御も慈惠て撰寫されり次て是も三十二年後改ざる清光皇帝の御應天及清西陵帝の寛政元年の兩度皇居天上の御檻モア原平金部鳥夷に歸すと萬葉仙洞御所となを改す後水尾漢川洋川嘆モ繪と絵に上佐内記に勤しく手を拂ふる様手にも無無モア。館中之御室只を抜り池底宮御手と奉府に諸を改すと奉府へ寄附皇居内造営及内調及他の新調のもの費用多端の際此繪臺内再興の事を御承認頼み奉る奏上ナリト而くら爲勝ありて美。在位の時ナリトは御身と再興が圖よりて余詮ナリ止む止む御行とは世をすうと爲せ懲き要無の時期ありてれまほ此繪手を信美如慶の家に付づき御定あり代々其家に付く寶物トハ傳焉り莫不於御禁宮中の御儀式等の事もあまなんと成思ふわを極彩色ニ羅き秋鴉毛と称すと是事當ても奮効智力を發揮すと雖も然らず然て彼の信玄宮に付くも様手ハ如慶お駒人の助手と稱する。ものを爲すねと軽きの手すらむかう且者既に心もくらむる事又順治の錯雜さを授すと全うするやう御手に免ち井雅謹御の詞書うとのみ評く其文章の字う一もそぞる全部の御園公作筆もかと妙遇也手の清居にかかれて多個御色ひ良畫力に付く者殘り他御漫談と云。該役と島あらへて受けまほ補ひ詞書即も新作を清じて完全な年中行事繪臺再興アリと欲を寄さん此主事と様ぞれん主成

文正四年五月

田中南菴ちうす



大正
四
内交



卷一 観朝行幸



卷一 観朝行幸

物語
卷一
物語
卷二
物語
卷三
物語
卷四
物語
卷五
物語
卷六
物語
卷七
物語
卷八
物語
卷九
物語
卷十
物語
卷十一
物語
卷十二
物語
卷十三
物語
卷十四
物語
卷十五
物語
卷十六
物語
卷十七
物語
卷十八
物語
卷十九
物語
卷二十
物語
卷二十一
物語
卷二十二
物語
卷二十三
物語
卷二十四
物語
卷二十五
物語
卷二十六
物語
卷二十七
物語
卷二十八
物語
卷二十九
物語
卷三十
物語
卷三十一
物語
卷三十二
物語
卷三十三
物語
卷三十四
物語
卷三十五
物語
卷三十六
物語
卷三十七
物語
卷三十八
物語
卷三十九
物語
卷四十
物語
卷四十一
物語
卷四十二
物語
卷四十三
物語
卷四十四
物語
卷四十五
物語
卷四十六
物語
卷四十七
物語
卷四十八
物語
卷四十九
物語
卷五十
物語
卷五十一
物語
卷五十二
物語
卷五十三
物語
卷五十四
物語
卷五十五
物語
卷五十六
物語
卷五十七
物語
卷五十八
物語
卷五十九
物語
卷六十
物語
卷六十一
物語
卷六十二
物語
卷六十三
物語
卷六十四
物語
卷六十五
物語
卷六十六
物語
卷六十七
物語
卷六十八
物語
卷六十九
物語
卷七十
物語
卷七十一
物語
卷七十二
物語
卷七十三
物語
卷七十四
物語
卷七十五
物語
卷七十六
物語
卷七十七
物語
卷七十八
物語
卷七十九
物語
卷八十
物語
卷八十一
物語
卷八十二
物語
卷八十三
物語
卷八十四
物語
卷八十五
物語
卷八十六
物語
卷八十七
物語
卷八十八
物語
卷八十九
物語
卷九十
物語
卷九十一
物語
卷九十二
物語
卷九十三
物語
卷九十四
物語
卷九十五
物語
卷九十六
物語
卷九十七
物語
卷九十八
物語
卷九十九
物語
卷一百
物語

卷一
驥

其二



三其



四其



四三

五兵



其四



六其



其五



幸朝観



卷六





三其



其二



四其



其三



五具



海山



第三章 觀幻車



真五

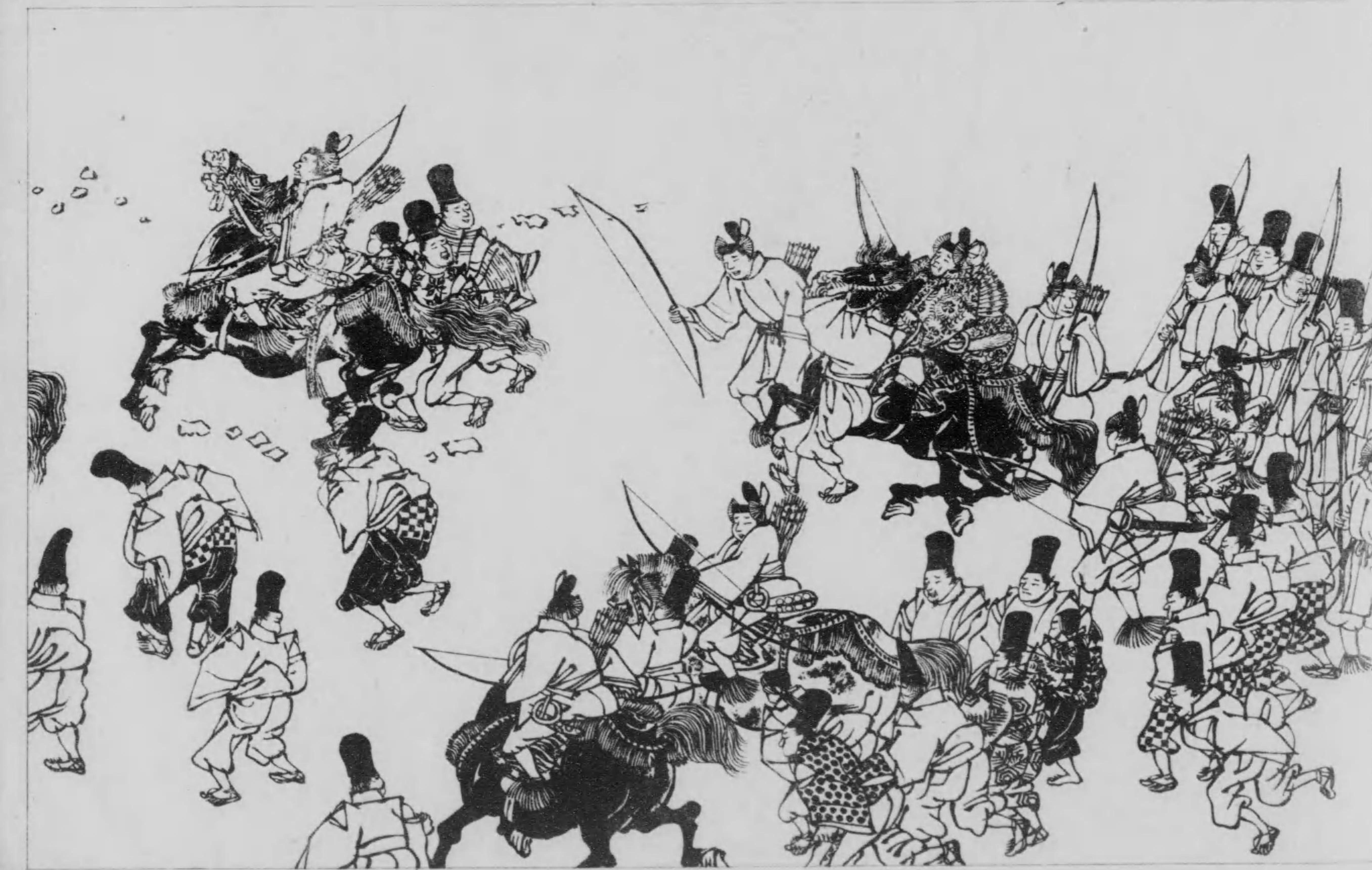




三其



四
真



三
真



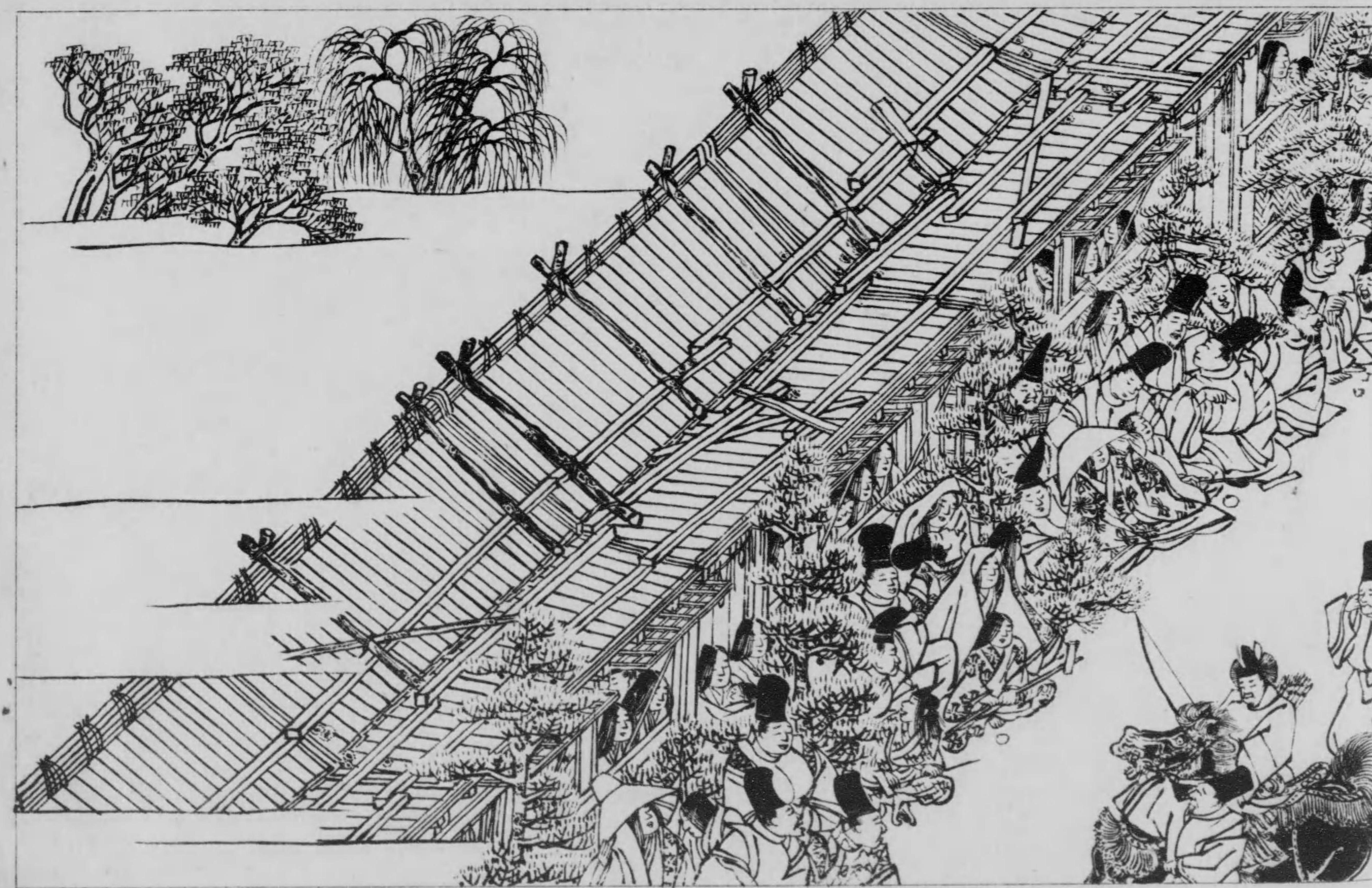
五其



其五



其六



其七



終

